

# 『はじめて知ったことを知らせよう』

— 「初めての葉」を作り，読書の幅を広げる—

3年

## ■ 設定の趣旨

読書は本来，自己内完結する活動である。どんなジャンルを好み，どのように読書を楽しむかは，各々違ってよいのである。本単元で扱う図鑑や科学読み物は，読書経験の個人差が大きいジャンルの書物である。読んだ感想を交流したいと思えるようになるためには，一工夫が必要である。

そこで学級として「新たな知識を増やす＝初めての葉を木に増やす」活動を設定する。読書には，新しい知識や情報を得られる意義があることを経験しているので，一人一人が見付けた「初めての葉」を交流することで学級としての財産が増えていく見通しをもつことができれば，意欲喚起につながる。個人の驚きや感動を友達と共有することができれば，新たな本に手を伸ばすきっかけが生まれることも期待できるのである。

「初めての葉」は，伝え合いの場でも役立てられる。自分が驚いたり感心したり不思議に思ったりしたことを「初めての葉」として発表の中心に据えることで，受け手もどこに重点を置いて聞くとよいか意識化することができる。発表メモとしても活用することを想定してもよいといえる。

## ■ 指導目標

○図鑑や科学読み物を読むことが，新たな知識や情報を得ることに役立つことを知ることができる。

【知識及び技能】

○同じ文章を読んでも，驚いたことや感心したことや不思議に思ったことなどに感じ方の違いがあることに気付くことができる。

【思考力，判断力，表現力等】

○図鑑や科学読み物などを積極的に読み，初めて知ったことを整理することで，読書の意義を見出そうとすることができる。

【学びに向かう力，人間性等】

■ 指導計画（6時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点と評価規準・評価方法
1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書経験や他教科の学習を想起し、読書や調べ学習をする楽しさについて発表し合う。</li> <li>・それらを整理する中で、図鑑や科学読み物には、新しい知識を得られるよさがあることに気付く。</li> <li>・図鑑や科学読み物から新しく知ったことを「初めての葉」に書き、それを基に伝え合うという学習の見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科や総合的な学習の時間の学習と関連付け、調べ学習の経験を提示する。</li> <li>・「初めての葉」を重ねられるように教室内に「初めての木」（掲示物）を用意する。教師見本の「初めての葉」を「初めての木」に掲示する様子を示すことで、学習への意欲喚起となるようにする。</li> </ul>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館や地域図書館に行き、図鑑や科学読み物などから、興味をもった本を選ぶ。</li> <li>・初めて知ったことや驚いたこと、感心したことや不思議に思ったことなど「初めての葉」に書き込むための内容を付箋に記録する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すでに読書経験のある本でも構わないことを伝える。読書経験を基に、驚いたり感動したりしたことを友達に伝えようとする意欲も認めるようにする。</li> <li>・授業時間内だけでは、本を読み切ることができない場合もある。時間をかけて読書を楽しむよさもあるので、朝読書の時間や休み時間、放課後にも読むこともできるように、1次と2次に数日空けるように配慮する。</li> </ul>
2	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「鳥になったきょうりゅうの話」を読む。</li> <li>・初めて知ったことや驚いたこと、感心したことや不思議に思ったことを付箋に書く。</li> <li>・グループで各自の付箋の内容を確かめ合う。選んだ理由や互いの内容への感想を交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・付箋ではなく、タブレット（ICT）を使い、交流ソフトを活用して意見交換することもできる。</li> </ul>
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「鳥になったきょうりゅうの話」について書かれた「初めての葉」の例示を基に発表までの準備過程や発表の仕方のイメージを捉える。</li> <li>・付箋を基に、「初めての葉」を書き、発表の準備や練習をする。</li> </ul>	<p>【知・技】「初めての葉」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○いくつかある付箋からより相手に伝えたい内容を厳選して書かれているか確認する。</li> </ul> <p>【態度】観察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○より伝わる発表に向けて試行錯誤しながら練習を重ねているか確認する。</li> </ul>

## わたしの授業

5	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ内で、選んだ本から知ったことについて発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「初めての葉」を「初めての木」に掲示して他グループの情報を見合うことができるようにする。</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いの発表を聞き合い、感想を付箋に書いて交換する。</li> <li>紹介された本を読み合う。</li> <li>「初めての葉」を仕上げる。</li> </ul>	<p>【知・技】発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○新しく知ったり感心したりしたことを発表する様子から、図鑑や科学読み物を読むよさを見付けようとしているか見る。</li> </ul>

## ■ 指導のポイント

### 〈第4時の扱い〉

学習活動	教師の働きかけ
<p>1. 「鳥になったきょうりゅうの話」を基に作成した「初めての葉」を例示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例) 鳥は、恐竜の生き残りだと知って、とても驚きました。恐竜の化石を調べてみたら、鳥の体のつくりとよく似ているようなのです。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>どこを引用して書かれたものなのか。</li> <li>付箋をどのように生かして書かれたものなのか。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>どのように「初めての葉」を生かして発表をすると、相手に伝わるようになるかな。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発表に向けて準備することを確認する。教師が「初めての葉」の例示をすることで、どのように生かして発表すると相手に伝わるのか考えるようになる。</li> <li>・付箋→「初めての葉」の作成過程がわかるように示す。</li> </ul>
<p>2. 例示された「初めての葉」を使って発表例を考える。</p> <p>(初め) 読んだ本の紹介 選んだ理由</p> <p>(中) 「初めての葉」について 今まで知らなかった 初めて知ったこと</p> <p>(終わり) 本に興味をもってもらったためのメッセージ 呼びかけ、こんな人に等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○例示を基に教師用の発表メモを考える過程を一度経験することで各自が考えやすくする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(発表例)</p> <p>ぼくは恐竜が好きなので「鳥になったきょうりゅうの話」という本を読みました。</p> <p>この本には、鳥は恐竜の生き残りだと書いてありました。恐竜の化石を調べてみると、鳥の体のつくりとよく似ているのだそうです。普段何気なく見ている鳥ですが、恐竜の仲間だと知って、とても驚きました。</p> <p>どうして恐竜が鳥になったのか知りたい人は、ぜひこの本を読んでみてください。</p> </div>
<p>3. 付箋を基に、「初めての葉」の下書きをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発表の練習段階では、「初めての葉」は下書きとしておき、グループ交流後に修正できるようにする。</li> </ul>

## わたしの授業

4. 発表の練習をする。	○「発表メモ」は作成しない。教師用「発表メモ」を参考に、「初めての葉」を生かして発表構成を考えられるように指示する。
5. 本時の振り返りをして、次時の見通しをもつ。	○次時のグループ内での発表に向け、各自の準備具合を確認する。

## ■ 後記

---

第4時は、教師が作成した「初めての葉」の例文を基に発表の仕方を考える1時間である。まずは、以下の2点を教師の提示を基に子どもに検討してもらいたい。

①事前に付箋に書かれた内容をどのように書き直したのか。

②「初めての葉」をどのように発表に生かすのか。

①は、教師用の付箋例も提示することで、「初めての葉」への書き表し方を考えることができるようになる。②は、実際の伝え合い場面を想定することで、発表の「中」で生かすことが効果的だと捉えられるようになる。大切なことは、子どもが個々で発表の準備・練習する過程を、例示を通して全体で一度経験することである。少しでも主体的な学びが途切れないように子どもの思考過程に寄り添って授業を構築していきたい。

3・6時のように互いの発表に対する意見交換をする際には、今後、よりタブレットの活用を選択肢に入れて授業を構想するようになるだろう。付箋やホワイトボードを想定した作られたソフトを使うことで、発表を聞き終えた時や交換した本を読み終えた時など、自分のタイミングで相手に意見を送ることができるようになる。「共有」を促す場の在り方についても、さらにICT化し工夫していく必要性を感じている。